

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習 1	担当教員	尾西教彰	池田千恵子
必修の区分	必修		近藤のぞみ	小林瑠音
単位数	2単位		石井路子	野津直樹
授業の方法	実習		深澤南土実	河村竜也
開講年次	1年第2クォーター		田上豊	中村敏
			岡元ひかる	
講義内容	<p>芸術文化・観光プロジェクト実習 1 では、芸術文化と観光の双方の視点を生かした演劇祭に係る実習を通じて、地域における芸術文化・観光プロジェクトの全体像を把握し、企画・運営の仕方、住民および観客との関わり方等を知る。これによって国際的フェスティバルにおける芸術文化と観光との関連性を実感するとともに、両分野の連携に関する課題を発見し、その解決と新たな展開へ向けての視点を獲得する。具体的には運営のスタッフとして、国内外からの来場者や海外のアーティストの宿泊施設、移手段における対応など、芸術文化および観光の実務を通じて演劇祭の全体像を把握する。</p>			
到達目標	<p>① 国際的な演劇祭における企画・運営の仕方、住民および観客との関わり方等を通じて、地域における芸術文化・観光プロジェクトの全体像を把握できる。</p> <p>② 国際的な演劇祭を通じて、交流人口の拡大という観光視点を含め、その課題を理解することができる。</p> <p>③ 国際的な演劇祭を通じて、パフォーマンスアートと結びつくことで生まれる観光の新たな価値に気づくことができる。</p>			
授業計画	<p>実習前の事前学習として、専任教員の指導のもと演劇祭を調査し、実習計画書を作成する。これを基に専任教員と学生が面談を行い、実務の種類ごとに適切なグループ分けを行う。実務の種類は、芸術文化分野と観光分野に分かれ、原則として一定期間ごとにグループ間で実務を交代する。</p> <p>実習中は、演劇祭の運営実務に従事し、実習指導者および実習施設職員によるレクチャーを受けることによって、各実務の性質や技能を理解し、演劇祭が持つローカルかつグローバルな意義を学ぶ。期間中は担当する実務を交代することで、幅広く仕事内容を経験し、演劇祭全体を理解できるようにする。</p> <p>中間時点及び最終日には、芸術文化と観光の双方の視点から学生による報告会を実施するほか、最終日には演劇祭主催者等との意見交換会を実施する。</p> <p>事後学習として、学生は完了報告書を作成し、芸術文化・観光プロジェクトの全体像をより深く理解できるように、専任教員による助言・指導を行う。</p>			
事前・事後学習	参加する学生は必ず事前研修を受け、事後に報告会での実習報告を行うこと。			
テキスト	特になし。			
参考文献	適宜指示する。			
成績評価の基準	実習の態度・日誌（70%）、実習報告レポート・プレゼン（30%）			
履修上の注意 履修要件				
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。			
備考欄				